

がしこい母さんをめざして

母親大会に270人が参加



二十六回めの「南国市母親大会」が七月八日、大篠小学校(分科会)と大篠地区公民館(全体会)で開かれ、お母さんや先生が二百七十人が「子どものために少しでもかしくなろう」と勉強しました。

子どもたちの未来のために熱心に勉強するお母さん

会場は熱気でムンムン

会場は、午前中五つの分科会に分かれ、①障害者の問題―障害をもつ子どものお母さんと先生がたの話し合い②くらしと平和―南国市の財政問題から行政改革、平和を守る運動の大切さ③幼年期の子どもの問題―子育ての基本、子どもの実態など④小学校の子どもの問題―うちの子は落ちこぼれではどうすればやる気のある子に……⑤中・高校生の問題―非行や暴力について、それぞれ熱心な話し合いが行われ、分科会などの会場も、お母さんの熱気でムンムンしていました。

内容はユーモアたっぷりと話してくれた講演に感銘しました。子どものためにガンバル。毎日、たくさん宿題をかかえ、アップアップしている子どもの姿を見ると、「どうしてこんなに宿題が多いのだろう。これほどまでにしなければ、ついていけないのだろうか」とアンチ教育ママの私です。「現在の教育制度、教育内容では仕方がないんですよ」とつらそうなお母さんの話を聞いて、よし、現実をがっちり受け止めて、子どものために「母さんがんばろう」と決意しました。

平和についても真剣に

参加したお母さんがたの感想

○自分の子どもの体験を交えて、落ちこぼれや学力と非行の関係、本當の学力とは何かなど、魅力あ

○いつも少ない平和問題の分科会も、今年は参加者も多く真剣に話し合われました。これは苦しくなる暮らしの問題から、軍備増強、戦争への危機感を、お母さんが身近に感じ取っているためだと思います。

もらいたいと思いました。
親子の軌道修正を

○岸本先生の話は、すばらしいものでした。模索していたものが、ようやくわかった感じがしました。中でも、今の学校教育は、私た

文化財をたずねて⑫

《立田の経塚》

立田の町の東端、旧日章駅の西南五十メートルのところに、五輪の塔と経塚がある。経塚は、供養のために経典を納めて、封土を築いたもので、お寺の境内や隣接地によく見受けられる。

土佐風土記によると、立田の土居城は、天文元年(一五三三)長宗我部氏に亡ぼされた。その時の戦没者のみ霊を、立田の東に埋葬し、同じ場所に、この戦いで焼けた願成寺の経文を埋蔵したが、立

ちの子どものころと比較にならないほどの速度で進められているため、家での勉強が足りない子は、授業について行けなくなる。まさしく「落ちこぼれ」ではなく「落ちこぼされている」という話にはあ然としました。

子どもの学力のことは気になりながらも、毎日の生活に追われて、子どもがどの程度理解しているのかわからぬまま、「宿題はすんだ?」と聞くのが関の山です。あげくは、「まあ、低学年のうちはのんびりして」と自分なりに納得して、ず

田の経塚であると書かれている。この経塚は、その昔、かなりの広さと高さを持ち、小山のような形で、その上に石堆や五輪があった。そして人々は、立田の経塚さまで呼んで崇拝していたが、明治中期から、荒したり汚したりして、霊威を恐れない不心得者がでてきた。また道路の拡張や、鉄道工事などで、だいぶ荒されたようである。

ところが工事のさなかに、作業人夫が原因不明の病気にかかり、医者の薬もなかなか効き目がな

この霊験あらたかな、立田の経塚も、今は訪れる人も少なく、厄病退散の物語を知る人はほとんどいない。



岡田清志さん

岡田清志さん(上陸内)の話

私の子どものころ、経塚の周辺

特に、厄病払いに、効き目があったということです。しかし、今では信心する人も少なく、私の近所でも、数人のおばあさんがお参りに行く程度です。このように地もとの貴重な文化財が、忘れられていくのは、何とも淋しい思いがしてなりません。

そこそこの経塚は、何かの祈願のためにお経を埋めたところですが、この立田の経塚の霊験は非常に高く、そのうわさは、高知城以東に知られたっていました。そのため祭りの日には、沿道に出店がいっぱいならび、参拝者でたいへんなぎわいだっただけです。

ただ、厄病払いに、効き目があったという点で、今では信心する人も少なく、私の近所でも、数人のおばあさんがお参りに行く程度です。このように地もとの貴重な文化財が、忘れられていくのは、何とも淋しい思いがしてなりません。



今は、訪れる人も少ない立田の経塚

